

全国学力・学習状況調査における香美町の調査結果のまとめ(概要)

香美町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、香美町における児童生徒の学力や学習状況を分析・把握し、本町の教育施策の成果や課題を検証し、その改善を図るとともに、各小・中学校における児童生徒への教育指導の充実や学習・生活状況の改善等に役立てることを目的とする。

なお、本調査において測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。

(2) 実施期日 平成31年4月18日(木)

2 本町の状況

◆<教科に関する調査の状況>

【調査結果の分析の基準】

| 全国平均正答率を基準とした時の割合 | 全国(公立)や兵庫県(公立)と比較した時の表現 |
|-------------------|-------------------------|
| +5%以上 | 上回る |
| ±5%内 | 同程度 |
| -5%以下 | 下回る |

① 小学校に関する状況

| 教科 | 香美町の結果 | |
|----|------------|-------------|
| | 全国(公立)との比較 | 兵庫県(公立)との比較 |
| 国語 | 同程度 | 同程度 |
| 算数 | 下回る | 下回る |

② 中学校に関する状況

| 教科 | 香美町の結果 | |
|----|------------|-------------|
| | 全国(公立)との比較 | 兵庫県(公立)との比較 |
| 国語 | 同程度 | 同程度 |
| 数学 | 同程度 | 同程度 |
| 英語 | 上回る | 同程度 |

③ 教科ごとの調査の状況

【調査結果の概略】※分析等の詳細は、本体冊子参照

小学校

(国語)

- ◎ 必要な情報を得るために、本や文章全体を概観して効果的に読むことはできている。
- 各問いの正答率や無解答率が10%を超えている「問い」の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- ★学習指導要領の領域別では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に課題がある。

(算数)

- 各問いの正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- 香美町では無解答率が10%を超えている「問い」はないものの、全国、兵庫県では、全問いの約7%みられる。
- ★学習指導要領の領域別では、「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」に課題がある。

中学校

(国語)

- ◎学習指導要領の領域別では、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「問い」で全国を上回るものがある。
- 各問いの正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- 全国、兵庫県、香美町とも無解答率が10%を超えている「問い」は見られない。

(数学)

- 各問いの正答率や無解答率が10%を超えている「問い」の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- ★学習指導要領の領域別では、「関数」、「資料の活用」に課題がある。

(英語)

- ◎「書くこと」の領域では、問われていることが分かれば、自分の考えなどをなんとか伝えようとする粘り強さや意欲がみられる。
- 各問いの正答率の傾向は、全国、兵庫県、香美町ともほぼ同じである。
- 無解答率が10%を超えている問いが、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の「問い」の一部にみられ、その傾向は全国、兵庫県と同様である。

(3) 調査実施校数及び人数

- ・小学校6年生：10校 128人
- ・中学校3年生：4校 150人

(4) 調査内容

ア 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語(中学校)〕

今年度から、これまでの主として「知識」に関する問題及び「活用」に関する問題が一体的に出題されることとなった。また、英語(中学校)が初めて実施された。

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- (ア) 児童生徒に対する調査
- (イ) 学校に対する調査

④ 教科における領域や項目の状況(良好な部分を中心に一部抜粋)

小学校 国語

- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。(大問2)…「読むこと」

小学校 算数

- ・台形についての理解(大問1)…「図形」
- ・棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ること。(大問2)…「数量関係」

中学校 国語

- ・文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つこと。(大問1)…「読むこと」等

中学校 数学

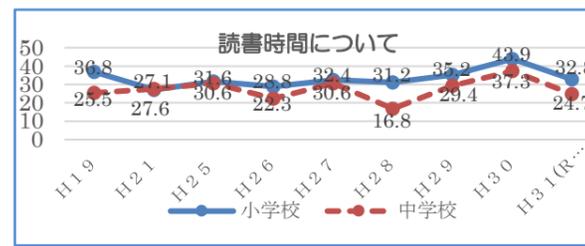
- ・平行移動の理解(大問3)…「図形」等

中学校 英語

- ・情報を正確に聞き取ることができること。(大問1)…「聞くこと」等

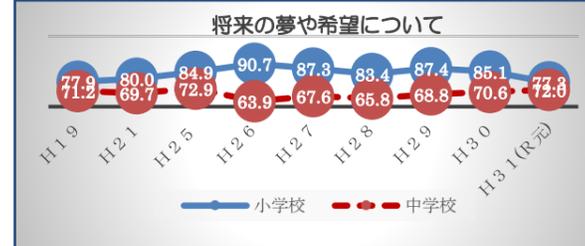
◆<児童生徒質問紙に関する調査の状況>

①【読書活動について】(「3つの町民運動」関連) [単位:%、以下同様]



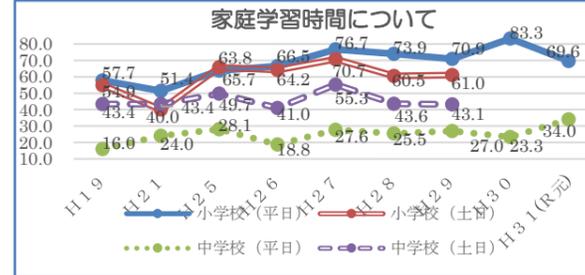
- 今年度は、児童生徒とも読書時間が減少している。
- 小学校6年生時(平成28年年度)には「30分以上読書する」と回答した割合が31.2%であったものが、中学校3年生時には、24.7%にまで減少している。
- 児童生徒とも、1日当たりの読書時間と各教科の平均正答率との間には有意な相関は見られなかった。(クロス集計ページ参照)
- 今後とも、「3つの町民運動」における「読書」の取組を着実に進めていくことが求められる。

②【将来の夢や目標について】(キャリア教育推進関連)



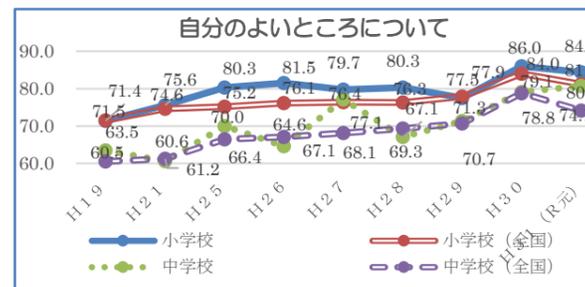
- 今年度は、小学校は減少、中学校は微増している。
- 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、児童では80%台程度で推移している。一方、生徒では70%前後で推移している。
- 今後とも、校種間の連携を図りつつ、一貫化教育の取組の中でキャリア教育の推進体制の整備を図り、児童生徒が、社会の変化を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、未来を切り拓いていく力を身に付けることができるよう取り組んでいくことが求められる。

③【家庭学習について】(キャリア教育推進関連)



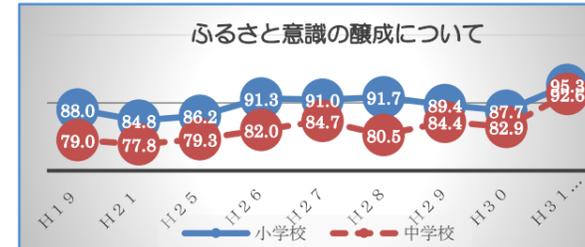
- 今年度、平日における児童の家庭学習の時間は、減少している。一方で、生徒の学習時間は微増している。
- 生徒では、平日の家庭学習の時間が「2時間以上」と回答している割合が、はじめて30%台となった。「家庭学習のきまり」などによる啓発を通じて、家庭学習の習慣化の取組が着実に成果を上げていると考えられる。
- 今後とも、キャリア教育推進の取組の一環として、「家庭学習」の重要性を児童生徒に認識させるとともに、校区内の小学校・中学校が連携しあって取り組むことが大切である。

④【自己有用感について】



- 今年度は、香美町の中学校では微増しているが、小学校は微減している。
- 経年比較全体としてみれば、ゆるやかに右肩上がりになっており、保護者や教師が子どものよいところを褒めたり、認めたりするなどして自信をもたせる取組により、一定の成果が現れつつあると考えられる。
- 今後とも、家庭との連携を図るとともに、授業や学校行事など、様々な機会や場を通して、子どもたちの成功体験を価値付けし、達成感や成就感を持たせる取組を充実していくことが大切である。
- 学力とのクロス集計では、今回は明らかな相関関係は見られなかった。(クロス集計ページ参照)

⑤【ふるさと意識の醸成について】(「ふるさと教育」推進関連)



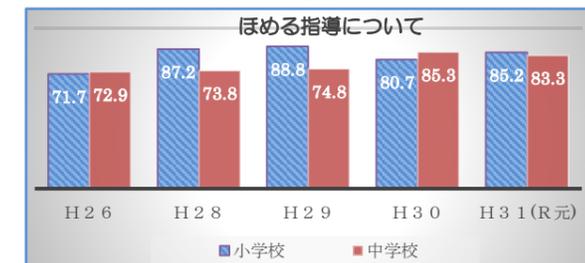
- これまで同様に、児童生徒とも、「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は高いが、児童の方が生徒よりも高く推移している。
- 今年度は、児童生徒とも90%台に乗った。小・中学校とも、「ふるさと教育」の取組成果が浸透しつつあることがうかがえる。
- 学力とのクロス集計では、生徒においては有意な差は見られなかったが、児童においては、平均正答率が高い児童ほどふるさと意識が低く、逆相関の関係が見られた。(クロス集計ページ参照)

※(参考)

「今住んでいる地域が好きですか。」(平成19年度調査)の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童(小学校6年生) 生徒(中学校3年生)の割合は次のとおりである。

| | |
|----|-------|
| 児童 | 84.8% |
| 生徒 | 73.1% |

⑥【教師が児童生徒のことを認めることについて】(「ほめる指導」「認める指導」関連)



- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」と回答している児童生徒の割合は、今年度、生徒はやや減少したが、児童はやや増加した。
- 「香美町教育の重点」に示された「ほめる指導」、「認める指導」の推進が浸透しつつあることがうかがえる。
- 今後とも、脳科学の知見を生かし「ほめること」、「認めること」の大切さを保護者などに啓発していくとともに、その実践充実に努め、児童生徒の内発的学習意欲の向上に繋げる取組が求められる。

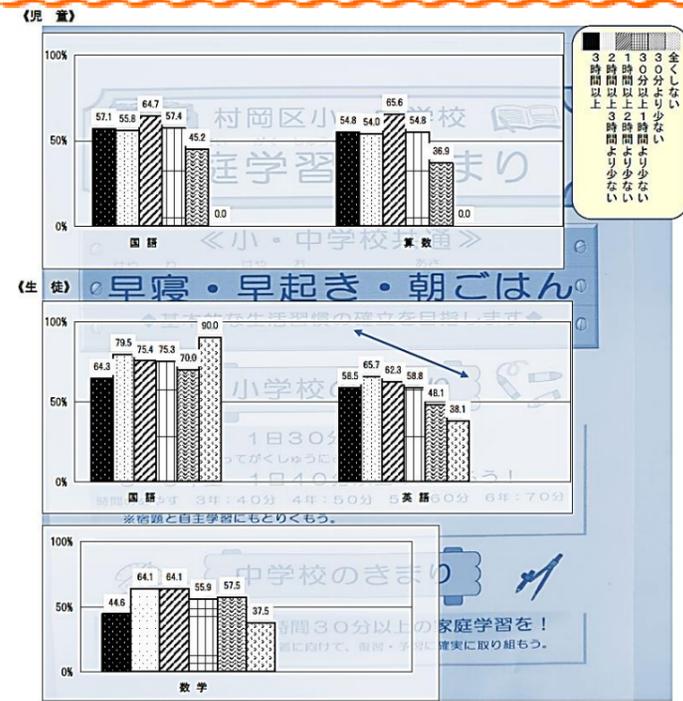
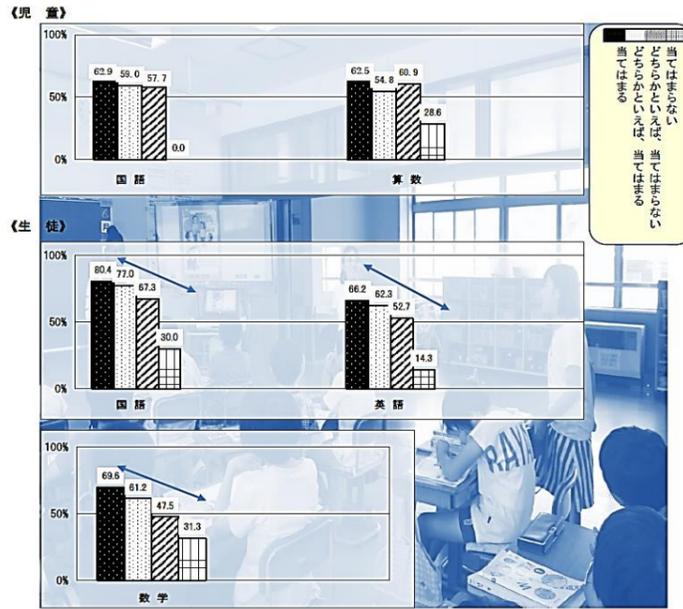
◆<児童生徒質問紙と学力のクロス分析から>

<主体的、対話的で深い学びの視点に立った取組と平均正答率の状況について>

【質問番号】 小 (35) 中 (37)
 【質問事項】 5年生までに受けた授業では(1, 2年生のときに受けた授業では), 課題の解決に向けて, 自分で考え, 自分から取り組んでいたと思いますか

【分析及び考察】

- 生徒は肯定的な回答を選択した方が, どの教科とも平均正答率が高い傾向にあり, 相関が認められる。児童については, 生徒ほど顕著ではない。今後とも, 主体的、対話的で深い学びの視点に立った積極的な取組が求められる。
- 学校質問紙では, 肯定的な回答をした学校が12校, 否定的な回答をした学校は2校である。

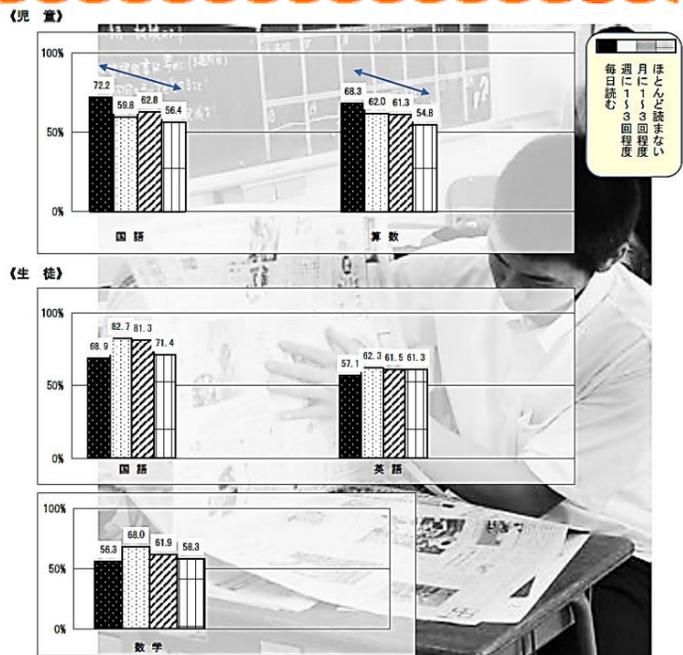


<「家庭学習」と平均正答率の状況について>

【質問番号】 小 (18)、中 (18)
 【質問事項】 学校の授業時間以外に, 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

【分析及び考察】

- 児童については, 「1時間以上, 2時間より少ない」が, 国語, 算数とも最も平均正答率が高い。家庭学習の時間と平均正答率との間には, ゆるやかな相関関係が見られる。
- 生徒については, 英語について家庭学習の時間と平均正答率との間に, 明らかな相関関係がみられる。



<「新聞を読むこと」と正答率の状況について>

【質問番号】 小 (22)、中 (22)
 【質問事項】 新聞を読んでいますか

【分析及び考察】

- 児童については, 国語, 算数とも新聞を読む頻度と平均正答率の間にはゆるやかな相関関係が見られる。
- 生徒については, 国語, 数学において一部ゆるやかな相関関係が見られる。英語においてはどの区分においても, ほぼ同じ平均正答率である。
- 新聞を読む習慣は, 昨年度からやや減少しており, 今後とも新聞を読むことを日常生活の一部として取り入れていくことが求められる(「これまでの回答状況の変化から」のページ参照)



3 今後の取組の方向性について

学校では

魅力ある授業づくりを!

~「学ぶ授業」から「学び合う授業」へ, 授業の質的転換を図る~
 児童生徒の「学びに向かう力」を高めるためには, 安心して共に学び合う学校環境の整備を進めるとともに, 指導者は子どもたちの実態や教室での事実に基づき, 学力や学習状況の把握に基づく, きめ細かな学習指導に取り組むことが大切です。

指導力を高め合う組織づくりと

学びの連続性のある取組を!

~小中連携, 小中一貫化の取組を通じた交流の質的高まりを図る~
 子どもたちの学びの連続性を保障するためには, 校種間の枠を越え, 義務教育9年間を通して児童生徒に必要な資質・能力を育むことが求められています。そのため, 調査結果等を全職員で共有し, カリキュラム・マネジメントの視点に立った取組をすすめるとともに, 系統性を意識した組織的な授業改善につなげることが大切です。

小規模校ならではの特色を生かした取組を!

~「学校間スーパー連携チャレンジプラン」を更に充実し, 取組の質的向上を図る~
 小規模校のよさを生かし, きめ細かな指導をすすめるとともに, 小規模校の課題を克服し, 子どもたちの主体性, 望ましい競争心などを育てることが大切です。そのために, 「学校間スーパー連携チャレンジプラン」に取り組み, 多人数の学習集団や複数教員による複眼的な指導により子どもたちの学力や人間関係力を高めていきます。

- ＜授業実践のポイント＞
- 国語科を要としつつ, 全ての教科等において到達段階に配慮した言語活動の充実を図る。
 - めあて・学習課題や学習の流れの提示, 「振り返り」活動を確実に取り入れる。
 - 新学習指導要領改訂のポイントを踏まえるとともに, 指導形態や指導方法の工夫改善を図り, 授業の展開の中に, 「書く活動」, 「発表や話し合う活動」などを積極的に取り入れ, 授業改善をすすめる。
 - ICT機器の活用を図ったり, 体験的な活動などを取り入れたりする。
 - 「ほめる指導」, 「認める指導」を大切にする。
 - 個人カルテの活用などにより, 一人もつまずきを見逃さない個別指導を推進する。

- ＜実践のポイント＞
- 若手とベテランが学び合う同僚性の構築を組織的にすすめる。
 - 中学校区で「目指す子ども像」を共有し, 合同研修会などを通して指導方法や指導体制等の工夫改善を図る。
 - 9年間を見通したカリキュラムづくりや授業研究や研修会, 乗り入れ授業などに取り組むとともに, 学習ルールや授業スタイルの共有化などを行う。
 - キャリア教育の視点から「家庭学習のきまり」を作成するなど, 中学校区で学習への目的意識を持たせる系統的な指導をすすめる。

- ＜実践のポイント＞
- 事前, 事後の打合せや研修を充実させるとともに, 他校の教員の実践からも学び合うなど, 自らの授業改善に生かす。
 - 取組成果や課題の可視化を図り, 次の取組につながる検証や評価などに取り組む。
 - 平成25年度からスタートし, 7年目を迎えた本事業の成果を継承するとともに, 課題解決のために設置した「チャレンジプラン総合会議」での協議を踏まえ, 今後の取組の充実を図る。

家庭、地域では

家庭は子どものよりどころ, すべての教育の出発点 地域の子どもは地域で育てる機運を盛り上げよう!

子どもたちが安心して学びに向かうためには, 学校にとって家庭や地域の協力は不可欠です。家庭で読書や家庭学習などに積極的に取り組んだり, 家の人と学校の出来事について話をしたりする児童生徒ほど, 学力・学習状況調査の正答率が高い傾向にあります。また, 地域には学校での学習につながる教育・学習資源や人材が豊富です。地域に学び, 子どもたちのふるさと意識を醸成していくことは, 将来の香美町を支えていくためにも大切です。「オープンスクール」, 「学校版教育環境会議」など, 様々な機会や場を通して, 学校と家庭・地域がいっしょになって子どもたちの未来を考え, 共に育んでいきましょう。

- ＜実践のポイント＞
- 規律ある生活(早寝, 早起き, 朝ごはん等), 家庭内での対話の習慣化
 - 家庭学習の習慣化(「ながら勉強せよ」など)
 - 家庭で読書に親しむ環境づくり(「親子で読書」, 「新聞を読むこと」の習慣化など)
 - スマートフォンなど情報通信機器利用に関するルールづくり
 - 努力すること, 最後までやり抜くことの大切さを伝える。
 - 子育て, しつけの中での「ほめる」, 「認める」の実践
 - 地域行事やボランティア活動などへの参加を通じた「ふるさと意識」や社会貢献意識の醸成
 - 「あいさつ運動」の推進や「ふるさとものしり博士」などによる学校支援等

行政では

学校・家庭・地域への支援を!

教育委員会では, 「ふるさとに学び 夢や志を抱きふるさと香美を大切に作る人づくり」を目指し, 「香美町教育振興基本計画」や「香美町教育の重点」に基づき, 香美町の教育を推進していきます。そのために, 各学校の教育充実を図るとともに, 家庭・地域での様々な取組を支援していきます。

- 各種研修会の実施による教員の指導力等向上への支援
- ホームページ, 町広報誌などによる情報提供
- 各種事業の実施(ふるさと教育交流会, ふるさとおもしろ塾, 土曜チャレンジ学習, ふるさと給食試食会など)
- 学校等の施設設備など, 教育・学習環境の充実等